

【山直北・城東校区】
学校適正化に向けた校区懇談会
(第2回)

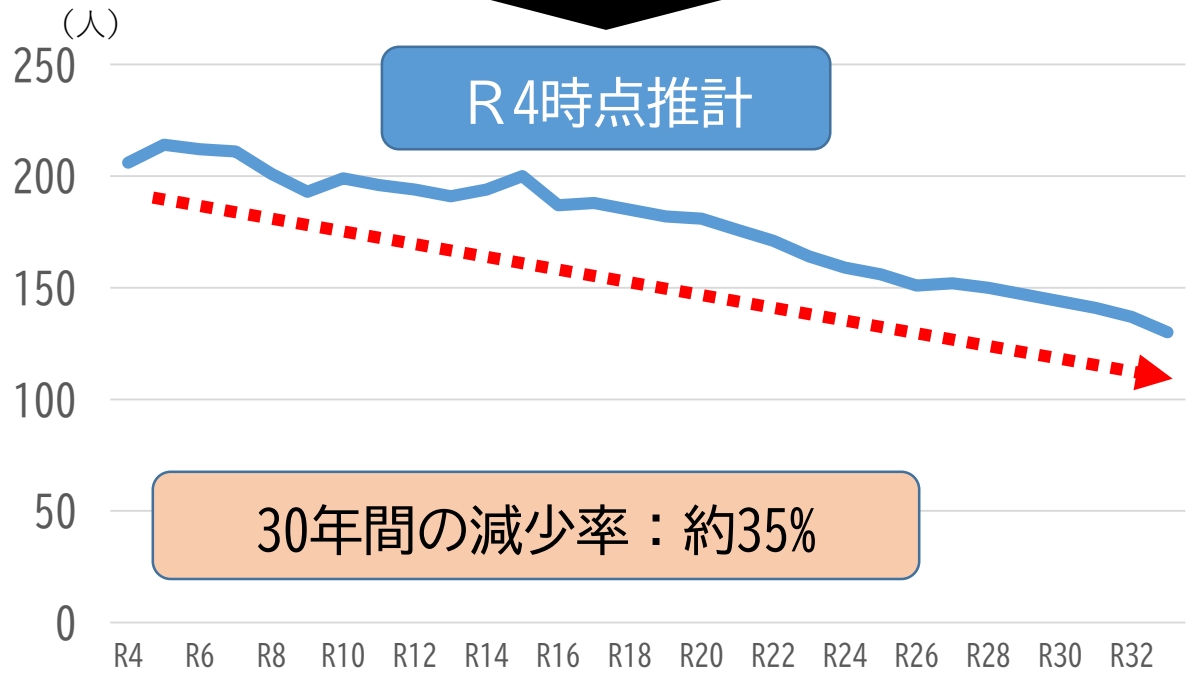
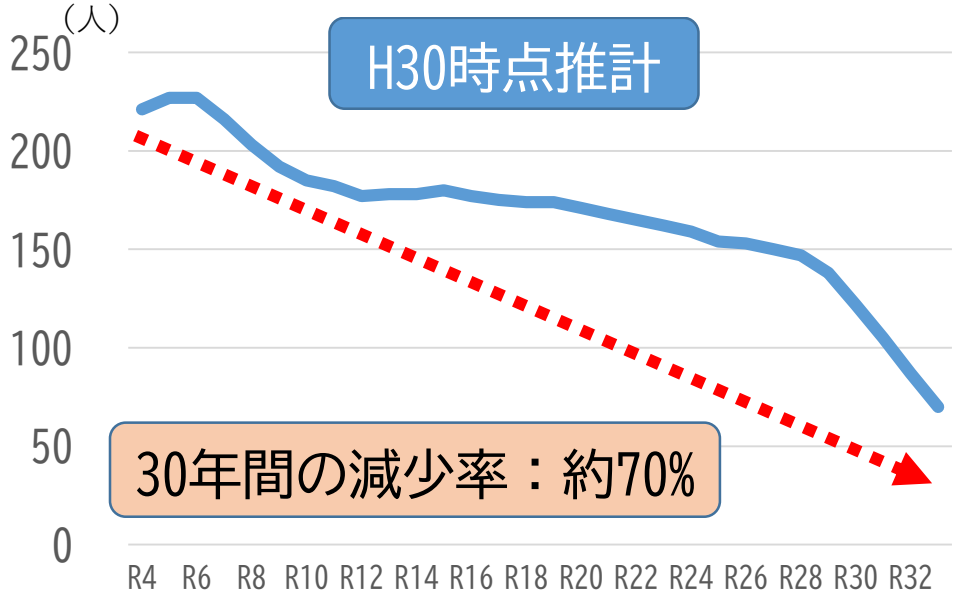
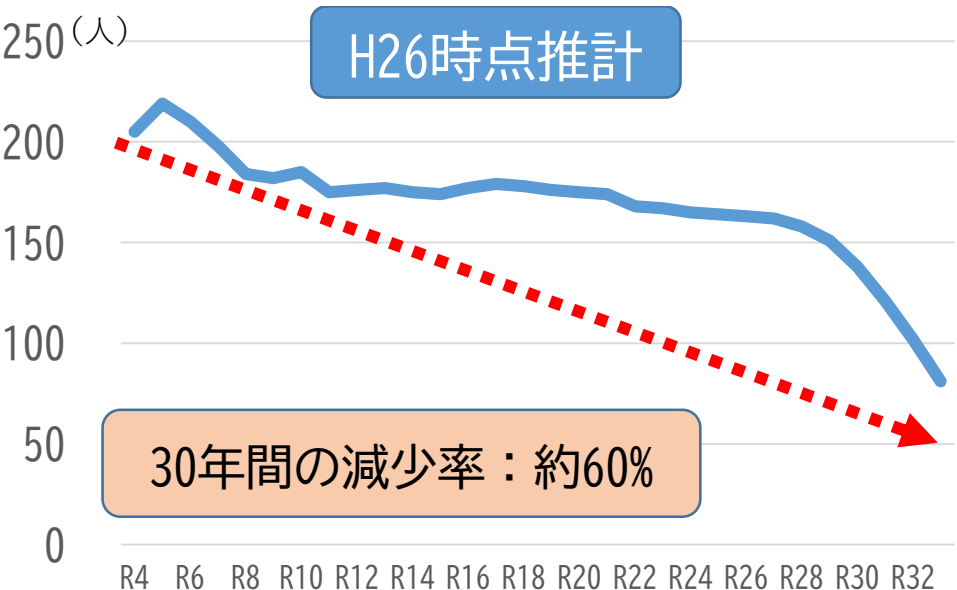


第1回懇談会でいただいた主なご意見について

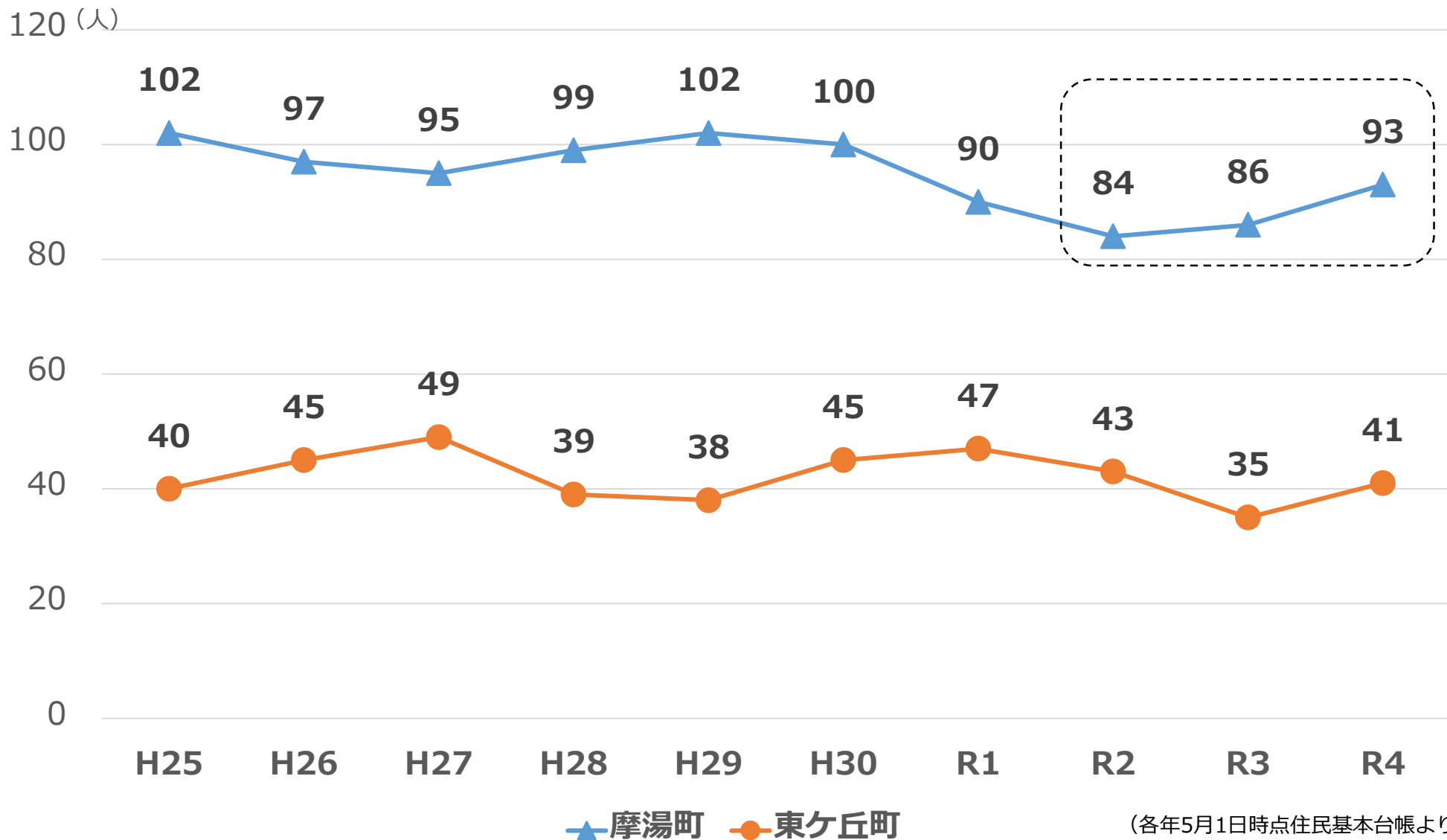
- ◆摩湯町では、新たな住民に住んでもらう方策を考えている。
また摩湯町以外でも新たな住民を呼び込む取組を進めているのではないかと。
- ◆実際に子どもの数が増えており、今年度の城東小学校では1年生が2学級となっている。
- ◆単学級だから再編の方向性ありきで話を進められているようだが、複数学級があった場合でも統合するのかといったことも話し合うべき。
- ◆三田町では新たな交通拠点完成の予定であり、それに伴い市街化区域の拡大も予定されているのでは。

城東校区及び山直北校区における児童数増加要因や、直近の人口状況について精査しました。

城東校区における6歳～11歳人口推計 ※将来人口推計（企画課作成）より

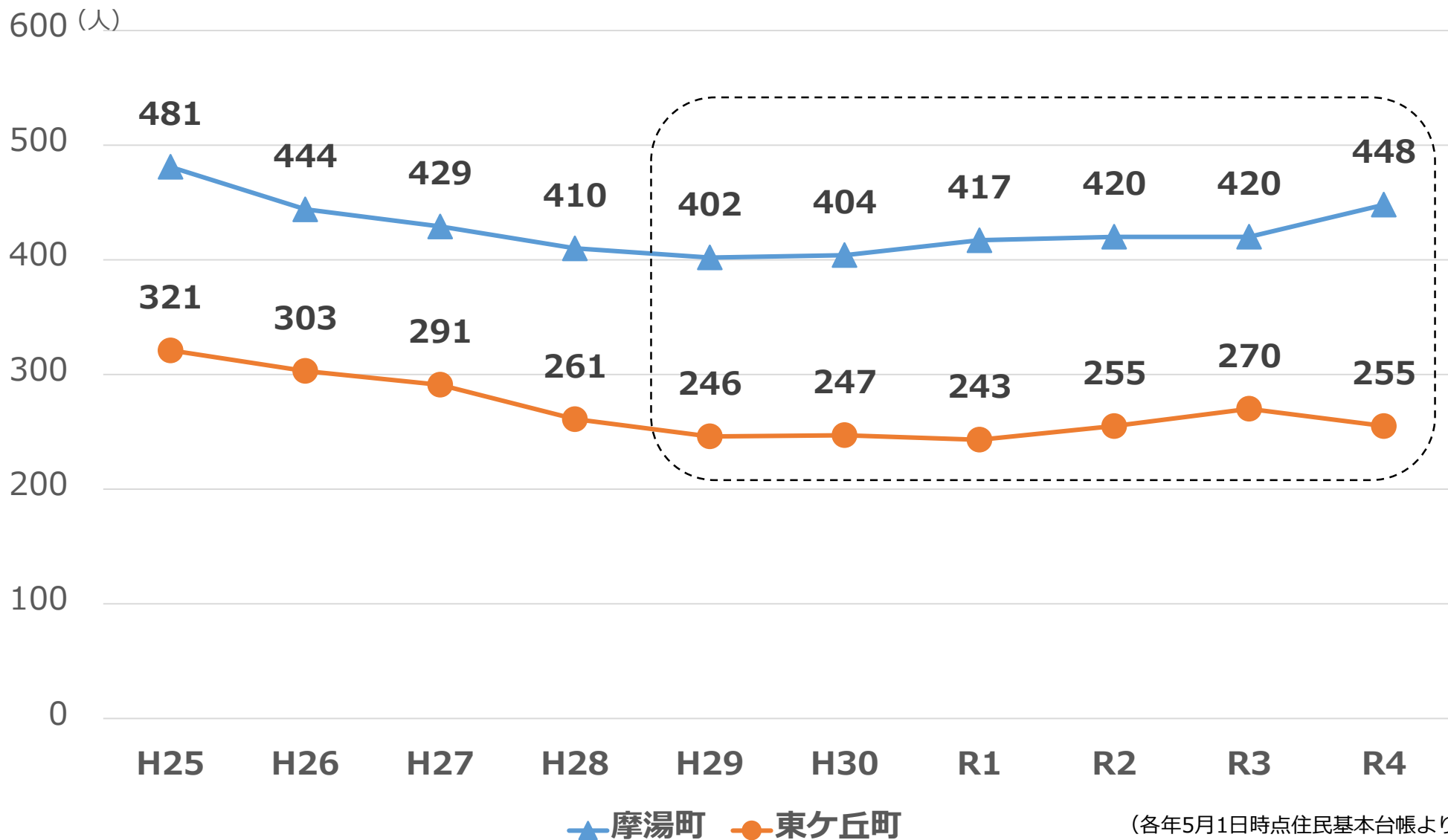


【0歳児～4歳児】過去10年間の人口推移（摩湯町・東ヶ丘町）



(各年5月1日時点住民基本台帳より)

【20代30代】 過去10年間の人口推移（摩湯町・東ヶ丘町）



【城東小学校】実施計画（案）策定(R2)時点の児童数・学級数見込

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
1年生	43	48	35	41	29	31	30	31
2年生	36	43	48	35	41	29	31	30
3年生	40	36	43	48	35	41	29	31
4年生	36	40	36	43	48	35	41	29
5年生	28	36	40	36	43	48	35	41
6年生	35	28	36	40	36	43	48	35
児童数見込	218	231	238	243	232	227	214	197
うち支援児童	24	25	26	27	26	25	24	22
学級数見込	7	7	7	7	7	7	7	6

(学級数は通常学級)

【城東小学校】コーホート要因法による児童数の長期見込（R2時点推計）

年度	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
1年生	37	37	35	35	34	34	32	32	31	29	31
2年生	34	37	37	34	34	33	33	31	31	31	29
3年生	33	35	37	37	35	35	34	34	32	32	32
4年生	30	33	35	37	37	35	35	34	34	32	32
5年生	45	30	34	37	38	38	37	37	35	35	33
6年生	35	45	30	34	37	38	38	37	37	35	35
児童数見込	214	216	208	214	215	214	209	205	200	194	192
学級数見込	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6
年度	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31
1年生	31	31	29	29	30	29	30	25	25	25	25
2年生	31	31	31	27	27	29	27	29	25	25	25
3年生	29	32	32	32	27	27	29	27	29	25	25
4年生	32	30	32	32	32	29	29	30	29	30	25
5年生	33	33	31	33	33	33	29	29	31	29	31
6年生	33	33	33	31	33	33	33	29	29	31	29
児童数見込	189	190	187	184	183	179	176	168	167	165	160
学級数見込	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

（学級数は通常学級）

【城東小学校】令和4年度時点の児童数・学級数見込 (R3～R4は実績値)

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
1年生	36	40	39	39	35	29	26	46
2年生	36	36	40	39	39	35	29	26
3年生	39	36	36	40	39	39	35	29
4年生	37	38	36	36	40	39	39	35
5年生	29	38	38	36	36	40	39	39
6年生	35	28	38	38	36	36	40	39
児童数見込	212	216	227	228	225	218	208	214
うち支援児童	22	22	23	23	23	22	21	21
学級数見込	6	7	8	9	9	9	9	9

(学級数は通常学級)

【城東小学校】コーホート要因法による児童数の長期見込（R4最新推計）

年度	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
1年生	54	38	38	34	35	38	38	38	34	33	33
2年生	29	55	38	38	33	34	38	38	38	33	33
3年生	28	29	55	38	38	34	35	38	38	38	34
4年生	38	29	29	55	38	38	34	35	38	38	38
5年生	41	38	30	29	55	38	38	35	35	38	38
6年生	43	41	38	30	29	54	38	38	35	35	38
児童数見込	233	230	227	224	227	235	219	220	217	213	212
学級数見込	10	10	10	9	9	10	10	10	9	9	9

年度	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31
1年生	30	30	29	28	29	28	30	28	25	25	25
2年生	33	29	29	28	28	28	28	29	28	25	25
3年生	34	34	29	29	28	28	28	28	29	28	25
4年生	34	34	34	30	30	29	29	29	29	30	29
5年生	38	35	35	35	32	32	30	30	30	30	32
6年生	38	38	35	35	35	32	32	30	30	30	30
児童数見込	206	200	192	186	183	177	178	176	172	169	165
学級数見込	8	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6

（学級数は通常学級）

公共交通軸の形成に向けた取組

泉州山手線と沿道まちづくり手法の検討（ウラ面参照）と並行して、岸和田市では「より便利」、「より暮らしやすい」まちを実現していくために、第一段階として新しく拠点となる山直北地区で、バスなどの公共交通を充実させるなど、より魅力を高める公共交通軸の形成に向けた取組を行っています。具体的には、和泉中央駅を結ぶ路線バスや、関西国際空港を結ぶリムジンバスなど、大阪・堺と空港を結ぶ軸、通勤・通学等のための足としての利用を想定しています。

<公共交通軸のイメージ>



城と祭りと輝く未来
岸和田市制100周年

岸和田市100周年記念事業



泉州山手 未来への懸け橋 プロジェクト

～ 次の100年へ、新たな拠点を作ります。～

<新たな拠点（仮称）新拠点交通広場>

交通広場イメージ



スマートシティの取組みイメージ（移動がスムーズなまちづくり）



岸和田市制100周年である令和4年度に（仮称）新拠点交通広場が完成し、秋頃には和泉中央駅からのバスの運行やスマートシティの取組みを通じて、公共交通を中心とした移動がスムーズなまちづくりを目指します。

<問合せ先>
岸和田市まちづくり推進部市街地整備課
電話:072-447-6526
FAX:072-437-9171
メール:shiseibi@city.kishiwada.osaka.jp

新拠点整備担当のまちづくり推進部市街地整備課に対し、ヒアリングを実施しました。

Q.新拠点整備に伴い、都市計画区域の見直し(市街化区域拡大)は予定されているのか？

A.現在、エリア内の地権者等が参加する「山直北地区まちづくり研究会」を立ち上げ、意見交換を重ねているところ。現状では全エリアが市街化調整区域であり、市街化区域への編入は現時点で未定。

Q.新拠点整備に伴う今後の宅地動向は？

A.主要幹線道路に隣接しているため、産業関連企業を呼び込む案となっており、関連企業の社宅は一定想定されるが、高層住宅が建設できるようなエリア計画ではない。

生活拠点ゾーン、住宅ゾーン(三田町・磯之上山直線より和歌山側)では、既存の宅地環境を整えていく考え方。



現時点で、人口及び児童数の大きな増加は見込みにくい。



旧少年野球グラウンド

- ◆約26,000㎡の土地に、総区画数169の住宅開発を予定
- ◆3町2校区にまたがる地域であるため、山直北小学校と、八木小学校どちらも選択可能な調整区域を設定

Q.169区画の住宅開発によって、どのくらいの児童が増える？

正確な増加数は見込みにくいいため、近隣での開発実績を基に概算します。

①1区画あたりの居住人数を3.5人と仮定。→ $169 \times 3.5 = 592$ 人

②うち児童(小学1～6年生)の割合は、16%と仮定。→ $592 \times 0.16 = 95$ 人

③当該地域は「山直北小学校」「八木小学校」いずれも選択可能。

山直北小学校には半分(50%)が通学するものと仮定。→ $95 \div 2 = 48$ 人

⇒当該開発により増加する児童数を、48人と仮定します。

割合参考：貝塚市東山地区人口及び貝塚市立東山小学校児童数推移



実際には学年によって人数の多少にバラツキが生じるものの…

一旦は48人を単純に6学年で割ることで、学年あたり8人の児童が増加すると推測できる。

⇒これを踏まえた上で、(仮称)山直小学校としての推計表を作成しました。

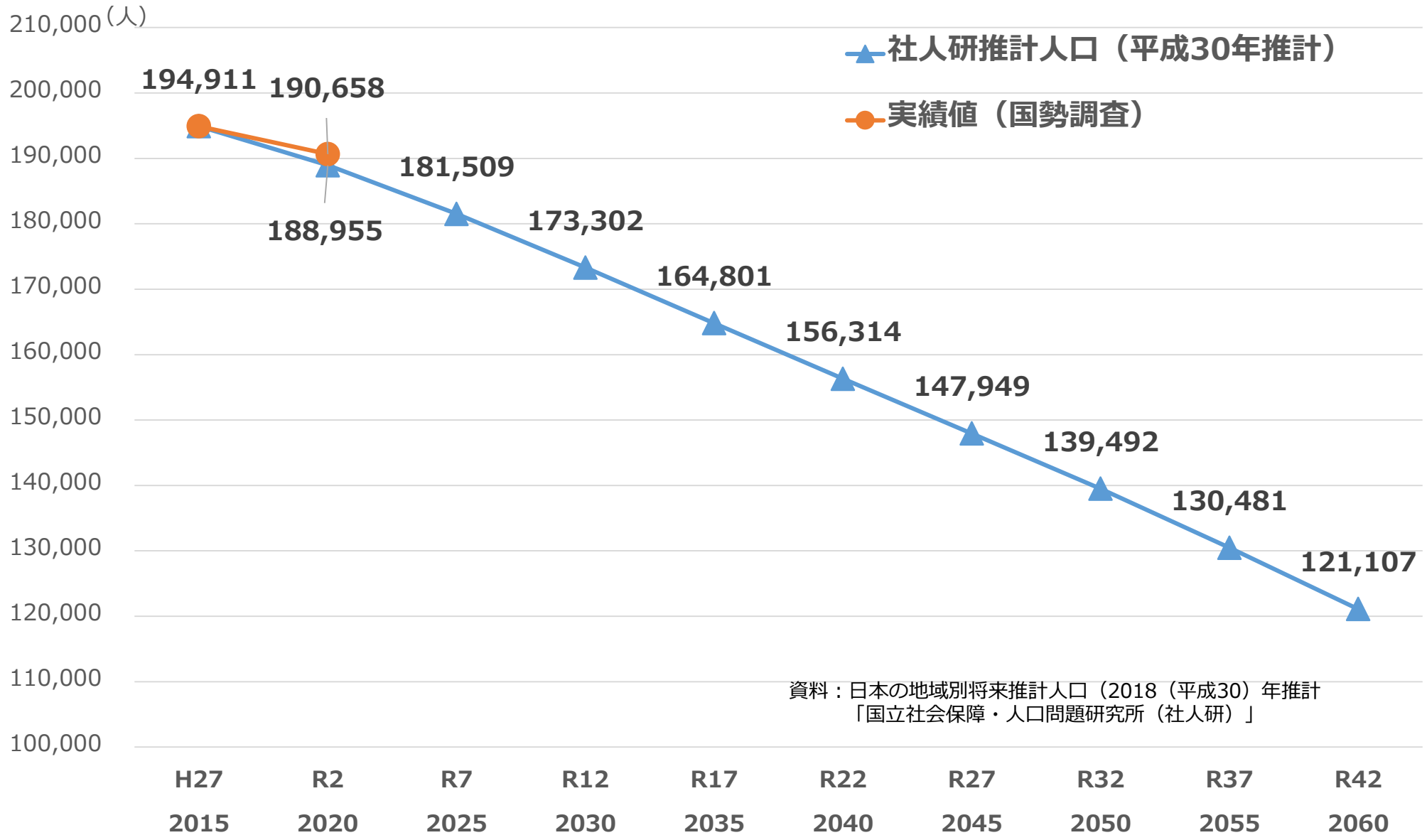
【(仮称)山直小学校】 コーホート要因法による児童数の長期見込 (R4最新推計)

年度	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
1年生	175	153	151	148	147	148	149	147	138	133	135
2年生	146	177	154	151	148	146	148	150	148	138	134
3年生	136	145	176	154	151	148	147	148	150	148	139
4年生	157	137	145	176	154	151	148	147	148	150	148
5年生	166	156	138	144	175	153	150	148	147	147	149
6年生	152	168	157	138	144	147	154	151	149	147	148
児童数見込	932	936	921	911	919	920	896	891	880	863	853
学級数見込	27	27	26	25	25	25	24	24	24	24	24

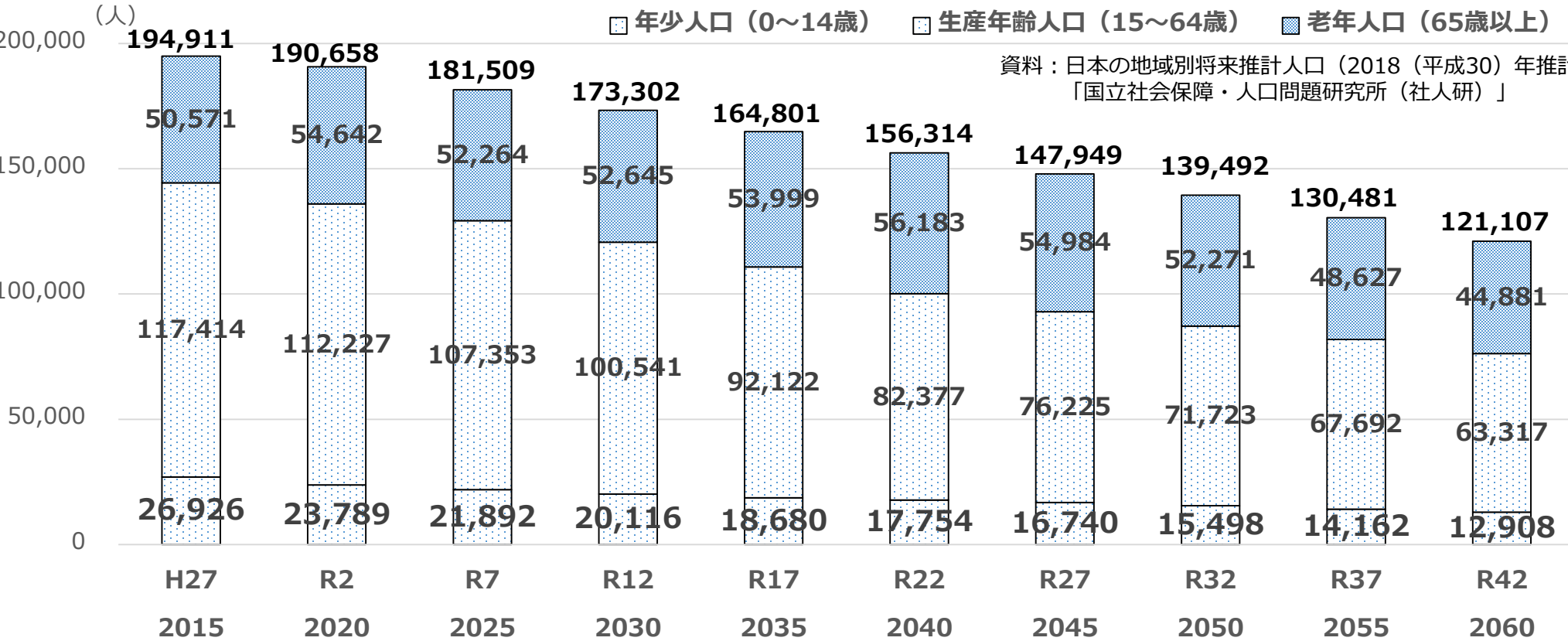
年度	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	R28	R29	R30	R31
1年生	132	126	126	122	123	113	117	119	111	115	107
2年生	136	132	126	126	123	123	114	117	120	112	116
3年生	134	137	132	126	126	123	123	114	117	120	112
4年生	139	134	137	133	127	127	125	124	116	119	122
5年生	147	139	134	137	133	128	127	126	125	118	121
6年生	150	148	140	134	138	135	129	128	127	126	118
児童数見込	838	816	795	778	770	748	735	728	716	710	696
学級数見込	24	24	24	24	24	23	23	23	23	22	22

(学級数は通常学級)

岸和田市全体の人口推移予測（社人研推計）



社人研推計による年齢3区分別人口予測（H27、R2は国勢調査実績値）



	H27	R2	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42
老年人口割合	25.9%	28.7%	28.8%	30.4%	32.8%	35.9%	37.2%	37.5%	37.3%	37.1%
生産年齢人口割合	60.2%	58.9%	59.1%	58.0%	55.9%	52.7%	51.5%	51.4%	51.9%	52.3%
年少人口割合	13.8%	12.5%	12.1%	11.6%	11.3%	11.4%	11.3%	11.1%	10.9%	10.7%

1学年あたり児童数と学級数の考え方について

令和3年4月1日 学級編制の標準引き下げに係る法律が施行

小学校での35人学級編制が実現(令和7年度まで学年順に実施、中学校は40人学級)

※支援学級は別途、8人で1学級という基準の下で学級編制がなされている

【実際の学級編制例】

1学年の人数が
36人
(うち支援学級に在籍する児童0人)

1学年
2クラス
(通常学級)

1学年の人数が
38人
(うち支援学級に在籍する児童4人)

1学年
1クラス
(通常学級)
(+支援学級)

「1学年の人数が35人を上回る = 必ず複数の通常学級になる」
というわけではありません。